

姫路市立網干小学校にて、小学4年生66名に防災教育出前講座を実施しました。

同校では昨年度に続き2回目の開催なのですが、講座開始前に廊下を歩いていると、昨年受講した子どもたちから「あ！あの人だ！見たことある！」と声をかけられ、昨年の事を覚えてくれていたことに感激しました！！
また、昨年受講した上級生や先生方から当講座の内容を耳にしてこの日を心待ちにしていた様子も見受けられ、より一層気合が入りました！！

今回は社長と社員16名が講師として参加し、ジオラマ模型を使用した都市型水害の再現と防災クイズ、河川氾濫体験シミュレーション「オソレル」の通常のメニューに、新メニューの「非常用持ち出し袋を作ろう！」を加えて実施しました。

ジオラマ模型を使用した都市型水害の再現では、水害には様々なパターンがある事や、どういった時に街が危険な状態になるのかについて学んで頂きました。子どもたちは、津波や河川氾濫により家や車が押し流される様子に「わー！」と驚きながらも真剣に模型を見ていました。

防災クイズでは、ハザードマップの読み取り方や水害に関するクイズを出題しました。子どもたちはクラスメイトと話し合いながら、元気に回答していました！

オソレルでは、浸水後に避難すると徐々に歩かなくなることや、水害時に街の景色が一変する事をゲーム感覚で楽しく学んで頂きました。

非常用持ち出し袋を作ろう！では、自宅にある様々な物が書かれた用紙から、非常用持ち出し袋に入れたほうが良いと思う物を子ども同士で話し合い選んで頂きました！その後、一例として実際の非常用持ち出し袋を見て頂いたのですが、手で発電できるラジオや乾パンなどに興味津々な様子でした。

講座終了後に行ったアンケートでは、「模型で水害の様子を見るのは初めてで、実際に水害を見ているようですごくわかりました。オソレルも、ニュージェックの方に隣でいろいろ教えて頂いてとっても勉強になりました。」「とっても勉強になって、家に帰ったら大雨は危ないと伝えようと思います。」などの感想を頂き、水災害について幅広く知識を身に着けることや防災意識の向上に微力ながら貢献できたのかなと考えています。今回学んだことを、自宅での防災対策や実際の避難活動に活かしてもらえたら嬉しいです！！（^^）校長先生からは来年度も来ていただければとの要請も頂きましたので、継続的に実施していきたいと思っています。

●当講座の様子は、日刊建設通信新聞社と日刊建設工業新聞社の2社に取材して頂き、紙面に掲載されました。（建設通信新聞 10月3日付、日刊建設工業新聞 10月4日付）

ジオラマ模型による都市型水害の再現



防災クイズ



河川氾濫体験シミュレーション「オソレル」



非常用持ち出し袋を作ろう！



今回参加した山林社長とN-EXPOメンバー

